

# 21世紀の予愁 - トンネルの彼方に明かりが (その5最終回) - ネット革新の現段階 -

鴨 脚 建 雷

司会者 K 教授 ; 社会政策論担当 崇貞クラブチーフ  
C 教授 ; 環境論・政治経済学担当、外部の4産官学  
研究会に参加する気鋭  
J 教授 ; 経営組織と情報革命論担当  
M 教授 ; 経営戦略論・産業経済論担当  
S 教授 ; 新事業開発論・財務戦略担当  
T 助教授 ; 経営者論・経営事例研究演習担当  
F 助教授 ; ネット社会論・ネット産業論  
記録 鴨脚建雷 ; 鴨長明を祖先の一人とする鴨族の末裔

K(司会); 皆さん、この「21世紀の予愁 - トンネルの彼方に明かりが」の放談会も今回で終わります。私が退職しますので、…。次の崇貞クラブチーフは別なテーマの下で様々な放談会を続けて欲しいと思います。今回は、〆めの話題として「ネット革新の現段階」を選びました。どうぞ、思う存分に放談して下さい。インターネットの発展が世界を大きく変え、21世紀に新しい文化の「明かり」をもたらすと信じて良いのではないのでしょうか。〆めに相応しい話題だと思うんですがね。C先生、いかがですか。

C; それは甘いですよ。そう簡単に割り切れない。いつも光明は陰影と対で語らなければならんです。それが世界文明史の宿命的な姿です。しかも全体としては悲観的ではない、…と行き

たい。特に K 先生の送り出し放談会ではね。

K; いやー、C先生には参りますな。ごもっともです。では、「もっと明かりを！」と云って、私は退出しますかな。(独言; いや、ゲートを真似ても誰も評価してくれん。)明かりが伴っている陰については、C先生、後で論じて下さい。

J; インターネットは、20世紀末に民間に開放されて以来、一挙に世界を覆い尽くすかのような勢いで伸張したが、ここに来て、そのネット革新もいよいよ第二段階突入の様相を呈し始めました。

K; 今日には諸先生にネット革命の現到達点をレビューして頂き、出来れば、これからの更なる展開も予測して頂きたい。先ず、「ネットこそ21世紀の輝く星だ」とするJ・F両先生からどうぞ。

## 連鎖するネットソフト革新

J; じゃ、お誘いに従って、最近のネット革命の先端波と思わしき幾つかの動きを放談しましょう。

ただ、ネットソフト革新は連鎖し続け、前進しているので、わたしのモニターレベルはやや問題含みで漏れも多いかと、・・愁いがあります。

C; まあ、そんなお断りは無しと行きましょう。F先生はじめ諸先生もご出席だし、今日は楽しみですよ。

J; それでは、順次挙げてみます。

第1は、ネット革命の推進エンジン・ネットソフトの技術革新の更なる新発展です。それはとりもなおさず、新企業・新業態の登場であり、新旧企業の入れ替えすらも意味しています。

HTML と URL を組み合わせて「世界的なハイパーテキスト空間」WWW を考え出した英人 Tim Berners-Lee は、WWW 創出 10 年後の 2004 年新年にナイトの爵位を授与されましたが、本人は「現状はハイパーリンクの究極の姿にはほど遠い」と云って、次世代検索システムとしてセマンティック・ウェブ、RDF(RSS)<sup>1</sup> の開発を提案して、世界中が開発・実用化に動きだしました。

今春以降、殆どのポータルサイトが RSS リーダーを設けつつあります。携帯でもフルブラウザがやるし、RSS 広告社が設立され、電通やソフトバンクの出資したネット広告大手の CCI やリクルートもこれに

出資するなど、RSS に乗り遅れまいとする動きは随所に観察されます。

F; 検索エンジン市場では、Google と Yahoo!、MSN の三つ巴の競争が繰り広げられていますが、ローレンス・ペイジとセルゲイ・ブリンの二人の大学院生の開発した「高リンク度ページの優先表示ソフト」が物を言って、グーグル優位と判定出来ます。

だが、新たに Ask Jeeves も台頭してきました。Ask Jeeves は独自の検索エンジン「Teoma」を用いて、キーワードに関するオーソリティ度を分析してウェブサイトをクラスタ分類し、各クラスタ中で質の高いページを判断する「サブジェクト・スペシフィック・ポピュラリティ」と呼ぶ独自アルゴリズムを採用している。通常検索、リンク集サイト表示、自然文検索などの特徴を持っています。

S; NTT レゾナントの goo も最近この自然文検索を始めました。

F; 別な観点となりますが、グーグルをはじめとする「ウェブベースのネットアプリケーションソフト開発」が話題となってきた。ビル・ゲーツは「Windowsこそ最良の開発プラットフォーム」とするものの、ネットソフトウエアはオンラインサービスと結合して「サーバ・イコール・サービス(server-equals-service)」というアーキテクチャを導入すれば、「Exchange Server」のすべての機能をオンラインサービスとして提供できるようになる、と云うんで

す。これはネットソフト革新の根幹に関わります。

J; その話はネットソフトの根幹の蠢きとして目が離せないことは確かです。だが、詰めて云えば、当今のネットソフト革新のキーワードは、検索エンジン SEO、RSS、Skype、ブログ検索システム、SEM<sup>2</sup>となるでしょう。これらのコア革新はさらに付帯する細部の革新を伴い、また、相互に結合・影響して、革新を連鎖的に生み出していきます。

K; 第1点はネットソフト革新が第2段階に突入したということですな。それはネット機能の高次化、便利さの向上、と云うカタチで実用と連結しながら顕れてきた。すると、それがネットサービスの諸局面に浮上してきた、と理解してよろしいですな。

それでは、そのネット産業の動向を第2点として、F・M 両先生にお願いします。

## ネット産業の本質

### -情報取引性を中心とする

F; ネット産業は確かに旧産業を取り込み、組み替えつつ、急展開しています。これからもネットを中心に、産業組織の組み替え、産業構造の大変化は続きます。その場合、ネットの本質の一つが情報のやりとりにある以上、情報取引性(正確性・迅速性・双方向性)をめぐって、新ネット産業と旧産業とが結合し、或いは、競合・進化していくこととなります。ネット産業論の基本的な出発点がここにあ

るわけです。極論すれば、EC(電子商取引)も情報取引に他ならない。電機・自動車など部品・材料統合性の強い業種は B2B<sup>3</sup> の EC に強く結合しました。勿論、新旧商品の販売でも EC はかなり伸びています。B2C<sup>4</sup> や B2C も含めて、EC の規模は GDP の 20%には達した筈です。100%になることは無くても、50%には達するのではないか、思いますよ。

予約も情報のやりとりですから、既存の旅行代理店はネット代理店に大分シェアを奪われていますね。不動産情報は対象候補絞り込み用に有益ですし、地図情報のビジネス化は今は難しいが、重要情報としてホームページの随所に活用されています。最近グーグルが出した地図情報 Gmail は初期的な段階だけに議論が分かれています。私はここにも大きな発展を予見します。

M; 金融・保険・証券・商品先物取引も一種の情報取引と見ることが出来るだけに、ネットビジネスとしても大いに発展する。立会いからネットへの証券取引の動向はその好例ですし、電子マネーコンセプトはカードシステムや認証システムなどと結合して行くし、金融界は技術革新のインパクトを受けて激変していますね。ネット産業は様々な金融ビジネスに食指を示し、クレジットカードや消費者金融では明らかに成功しています。

N; 様々な音楽や放送番組もネット

適性が高い。iPod は音楽界に激震をもたらしています。今、CD がそのシェアをネット配信に浸食されつつあり、かつての SP・LP レコードが衰微した姿を彷彿とさせます。著作権問題を完全にクリアすると、…。

M; 広告(広く云えば販売促進の諸策)も情報性が高く、ネット適性は抜群です。アフィリエイト広告の革新性が高いし、検索連動型広告も登場し、今後、ネット向け広告企画は益々充実するので、急速にそのウエイトは高まります。広告額ではネットはラジオ媒体を抜き、既存媒体での行き詰まり感のある広告界はネットで新展開するので、いま全広告中のシェアが低くても、戦略的にはネット広告を無視できなくなりつつあります。

J; 検索エンジンは益々進歩・高度化し、それに伴い、ネットソフトはネット広告技法を拡幅・高次化しつつあり、SEM がキーワードとして巷間に囃されるわけです。広告論・マーケティング論の講義には未だ登場していないですが、…。

M; 急展開過ぎるため、多分、GDP シェアとか、産業連関面でネット産業統計は追いついていない…のではないですか。C 先生、如何です？。

C; むうう…。いや、それは違います。わが国は 2001 年に、いち早く産業分類を改訂し、情報通信産業の位置づけを明確にしています。ただ、情報産業とかネット産業の

登場が他産業を再編成したか、とか、その旧産業へのインパクト分析までも統計ベースで行い得たかということ、私の知る限り、これは「未だし」といえますね。

S; 注目すべきは、ネット産業の発展に伴い、そのネット産業にサービスを提供するネットサービス産業も活躍顕著なことです。例えば、ASP ですな。ISP やネットソフト企業も後で話が出ると思いますが、これらが 21 世紀型ネット中小企業として益々群生・活躍して来る気がします。産業組織論的にも、中小企業論的にも、興味深い新研究対象です。ネットベンチャーは若く、知的にも精力的なだけに期待したいですな。

S; もう一つ追加すると、ネット産業の本質と云うよりは特徴と云うべきは「スピード経営」「合理的意思決定」です。これは戦略行動のあらゆる局面に顕れてきます。

「ネットの情報取引性」を中心とする、相乗効果狙いの、新種の多角化行動が観測され、総合ネット企業が生まれつつあります。

ソフトバンクとその子会社ヤフー、楽天、ライブドアなどが総合ネット企業化していますが、そのスピード総合化のツールは合理主義的な M&A です。日本では救済型 M&A は観測されましたが、控えられていた攻撃性の強い成長志向型 M&A が 1980 年代から出始め、ネット企業経営者は合理主義に則り、M&A を活用し始めたのです。その根幹にはスピード

意識があります。経営資源の自社内調達・育成はスピードの点で外部調達に叶わないのです。少なくとも、ネット企業の M & A 攻勢は常態化します。

K; 判りました。ネット産業の伸張はもはや疑いなし、その合理主義的スピード経営は M & A を常態化する、ということで、ネット産業論を終えます。

それでは次に、ネット革新の社会文化への大いなるインパクト、と云う観点からのご発言を頂きましょう。F 先生、先ずブログからお願いしましょう。

#### ブログ文化は花咲く

F; 「ネットソフト革新の普及は初めは無料からスタートする」と云う経験的な戦略がいつの間にか一般化している模様です。ブログも SNS<sup>5</sup> もそうやって普及し始めた。新しいものを普及させるにはあまりカベを作らない方が良いでしょう。だが、いつまでも無料ではやっていけなくなる。そこで民放方式の広告織り込み型ビジネスモデルも出てくる。第二段階で登場してきたブログも SNS も、はじめは無料からスタートしましたが、ビジネス化への逞しい野心から、有料化か広告導入型で発展が続くと思います。

K; 面白い第3論点ですな。諸先生、コメントして下さい。

T; 2003年に米国で相次いで SNS が誕生し、Google も SNS「Orkut」を始め、今年3月、米 Yahoo! がブログと SNS を統合したサービスへ

参入しました。

M; 性格的に SNS は日記や掲示板への書き込みなど、ブログとオーバーラップするサービスを含むため、最近、ブログと SNS の組み合わせ新サービス(ドリコム・NHN Japan・ネクソンジャパン・NTT データ)が登場してきました。また、ニフティも携帯電話専用 SNS 「フレリン」をスタートした。いずれも周辺拡大的な動きといえます。

J; ブログがリアルの世界で出版・映画に結びついたのが面白いですな。また、ブログは口コミ効果を持ち、企業のマーケティング活動に役立てられる、とする見方は頷けます。アフィリエイト広告的な意味合いですな。

C; それは一つの行き方ではある。しかし、ブログ文化の本流は別なところにも出来そうな気がします。

いや、在ってしかるべき、と思います。ブログでは、個人が情報の創造・発信・開示とそれに対するコメントを返し、ネット上での意見交換性が新しいネット社会文化を形成する、と云う点に着目したい。チャットはその先駆です。ブログも SNS も新しい市民社交場であって欲しい。

J; 趣味的・NPO 的なネット社会はそれでよいですが、ビジネスの世界では霞を喰って生きていけない。何らかのビジネスモデルを開発して事業化するんです。

F; 最近、グーグルは、「Blogger」(ブログ作成ツール)を開発し blog 運営サービスを提供しているパイ

ラ・ラボ Pyra Labs を買収しました。これからのネット文化の中でブログが果たす重要な役割を認めての戦略行動ですね。

米国のテクノラティ社(CEO David Sifry)は 2003 年にブログ専門検索技術を開発し、638 万のブログと 7 億 8900 万のリンク情報を検索対象としている、と云います。

日本ではデジタルガレージがテクノラティと業務提携し、ブログ専業会社「テクノラティジャパン」をデジタルガレージの 100% 出資で 2005 年 1 月に設立しました。日本のブログ数は年初は未だ 100 万程度と推測されていたが、今や、livedoor Blog、楽天広場をはじめとして、はてなダイアリー、ココログ@nifty、Seesaa ブログ、excite ブログ、goo ブログ、JUGEM、Ameba Blog など主なものでも 10 以上のブログサイトがあり、5000 万人以上の閲覧者数が報告されています。

J; ウェブ検索システムではテクノラティの方がグーグルより優れているのではないかと、との検討結果も発表されていますが、私はこれは革新進展の中の 1 ステージにしか過ぎないと見ます。抜きつ抜かれつのデッドヒートが見られるのではないのでしょうか。

いま、インターネット分野では「検索エンジン」、「ブログ」、「RSS」が熱い市場となっていますが、ブログ機能の創出とそれに伴う検索エンジン革新は第二世代ネット嵐の中心の一つと云えます。

J; ブログや SNS が発展期に入り、新社会文化が切り開かれました。私はどちらかと云うと、ブログ文化の発展性に注目しています。

K; ほほう、既に方向が見えた、ですか？。では、SNS に話題を移しましょう。

SNS は社交場か、ビジネス化するか  
F; SNS がビジネス性を具有するとしたら、ブログ広告と連携するか、販売促進ツール機能を具備するか、ですね。ネットの情報性を活用する販売促進的なネット事業が続出しています。一例がリクルートがやっているホットペッパーです。リクルートを広告代理店と見るかどうかでネット広告の規模が変わる、とさえ云われています。そのリクルートは採用・求人募集広告の古手としてネット化していますが、最近、完全にネット志向すると宣言しました。新興の SNS やブログの事業化もネット上での販促的なビジネス機能を織り込んで行くことになりましょう。

S; 私も学生に誘われて MIXY やグリーなど日本の SNS に参加しました。これがネット社交クラブとして存続するか、それともビジネスモデルを構築して、事業としての側面を備えるか、はこれからの努力次第という感じを抱いています。

T; SNS グリー主催の田中良和氏は楽天から独立して、グリーを株式会社化しました。

F 先生の予言する方向に事業化しそうですね。

J; 別々のサービスとしてやってい

る、ブログ、写真共有、ウィキ(Wiki)、地図、ポッドキャスト、動画ブログなどは、やがて、共通のユーザー・インターフェースをもつ1つのシステムにまとめられるのではないですか。

K; そんな姿を次の10年後に見通せるんですか。

J; いや、ひょっとすると、そんなに遠くはない。5年もすれば、出てくる気がします。そういう予言をしている人もいます。

C; さっきも云った様に、ブログ文化の本流は別なところに出来そうな気がします。重要なのは、ブログ・SNSではネット上で意見交換する新ネット文化を形成できる点です。ネットサーフィンしていると、カタイ話題をめぐって、資料を提示したり、意見交換したり、リンク集を創ったりして、様々な論考をしているグループに出くわします。私は日本文化論、古代史論に関心を持ってネットサーフィンしているんですが、結構色々な趣味人・知識人が参加して、広く深くやっていますね。試しに「万葉集」をキーワードに入れると、そりゃーもう楽しめます。様々なネット文化クラブ群を発見すると、私はわくわくするんです。ブログ討論会もあり得ます。

K; うーむ。私も退職後はネットサーフィンするか。…ネットの発展は多様な可能性を秘めていますな。一本線の予測は難しい。じゃー、この辺で、第4の通信インフラの大変化に行きましょう。

次世代ネットワーク NGN

-光ブロードバンド・通信 IP<sup>6</sup>化

F; 次の10年間にネット・ブロードバンドは光ファイバー化し、次世代ネット規格 IPv6<sup>7</sup>時代になります。FMC<sup>8</sup>はすぐにでも来るし、NGN<sup>9</sup>時代の到来です。「最後の1マイル」問題も解決する。

K; いやあ、そんなに色々な略字語を云われても、年寄りには困惑するだけです。何とかして下さいよ。

C; K先生! そのお気持ちよく判ります。私は今日のトピックスの予習を兼ねて「日経コミュニケーションズ」の最近号を何冊かパラパラめくって驚いたのです。記事中の略字語の注釈説明が、紙面の左右のスペースに、1頁当たり3~4ヶもあるのです。国粹主義者としては「日本語を純粋に維持したい。」なんて、私は云っていたのですが、絶望的です。新文化の襲来スピードが速すぎるのです。ネット革新は米国先導ですから、どんどん略字語が創られ、略字語を元にもどしても、カタカナ英語にしか成らない。私は諦めました。あれだけ自国語の維持を叫ぶフランスも諦めていると思いますよ。

K; やむを得んです。自分がこの時流の速さに追従できるように努力しましょう。

J; 云う程には難しくないんです。要するに、日々ネット革新が続いている、と理解すればよいのです。技術の詳細はスキップしても良いではないですか。むしろそのネット革新の効果を知っておきたい。

F;ブロードバンド方式は今の ADSL 主流から 10 年で光に交代し、IP デジタル TV 放送は 2006 年から総務省で容認される。すると、放送業界との融合問題はもうすぐです。その通信規格はバージョン 6 に高次化する。これは次の 3 年ぐらいで大きな流れとなります。

米国では、日韓中よりもやや遅れて、2008 年から IPV6 化が始まる。日本では IP 電話化がもう始まったが、2012 年までに世界の IP 電話化は完了する。IP 化された電話網は NGN に他ならない。要するに、通信の世界は IP(インターネット仕様)化されるのです。その過程に、FMC(固定電話と携帯電話との融合)や NGN あり、最終的には、安価で簡便な IP 通信網が誕生する。2012 年から遅れても 2017 年には IP 化する。それは必ずや、ネットと放送との融合をもたらす。こんな案配です。

K;2017 年という、郵政民営化のターゲット年ですね。F 先生に確信をもって語られると弱いですな。M・S・T 先生、企業戦略論、新事業開発論、企業事例研究のお立場からご覧になって、ネット企業はどう動き、押される企業群はどう動くのでしょうか。

M;通信事業者は電話局(交換機ビジネス)からデータセンター(ネット情報ストック・加工・配信ビジネス)に変貌する。音声やデータを運ぶと云うよりは、コンピューティングサービスに参加する。そうしなければ、存在意義を失う。明

らかに、戦略転換を迫られていますね。

T;NTT はグループ内の重複が多く、グループの再編成に迫られていますね。

K;「ネットは通信産業を IP 化する」と理解してもよいですか。先ほどは、ネット産業は総合化し、旧産業群の中から「情報取引性」の強いものをネット産業に引きずり込む、ような発言がありました。なので、ネット・プリバレンスの世紀が来る、と。

C;K 先生、カタカナ英語はよして下さいよ。

J;しかし、IP 化にはカベはある。通信業者間の相互接続性は未解決というべきだし、IP 電話網のセキュリティも固定電話には敵わない。これを解決しなければいけない。音質維持やサービスの継承も移行完了までに解決しなければならない。心配はしないが、いずれも普及の遅れ要因になる。

T;米国企業は投資採算意識が高いから、十分成算がなければ一気の IP 投資はしないでしょう。CATV が先行普及したこともある。これらも遅れ要因になる。

S;接続を中心とする通信業者数はここまでは大いに伸びて参りました。ネットビジネスを広く解釈すると、これからはネット企業は淘汰されませんか。

K;今、発展を語っているのに、そんなことがあり得ますか？



可能性を直視して発想する

J; 革新第1法則というのがあります。「革新をリードし続ける者のみが第1人者の地位を維持し続けることが出来る。」というのです。そして、革新第2法則は「革新は一人だけで独占できない。」です。裏返せば、「抜きつ、抜かれつ」の競争なくして革新の連鎖は生まれません。しかし、脱落者もいる。そして、革新第3法則は「革新を先見・認知するものだけが革新をリードする。」その補則は「革新を遅れて認知する者は追従に努めるか、疎外される。」です。

S; ネット世界は正に革新そのものズバリの世界です。企業淘汰は常にありますし、新ベンチャーの登場も常に続きます。グーグルの登場はつい最近です。その基幹論文発表が1998年、事業のIPO<sup>10</sup>は2004年、2005年10月25日現在の株式時価総額が508億ドルで、Yahooの479億ドルを超えました。また、S&P500社の50位を上回ります。

未だ小さいSix Apartは別例です。同社はサンフランシスコ郊外で若い米人夫婦が開発したブログソフトType Padをベースとする企業で、伊藤穰一氏とネオテニーの資本参加を受け入れたエピソードと発展経緯をHPに出しています。片や、ネットスケープのような巨星も華々しく登場し、しかし、激化する競争の中で、あっという間にAOLの中に吸収され、消滅しました。色々あったし、ありますよ。

M; ヤフー・楽天・ライブドア・サイバーエージェント・インデックス・挙げると際限ないネット企業が日本でも証券市場に登場している。それらは既に見えるレベルに成長しているが、そうでないベンチャーも沢山いる世界 - それがネット産業です。

S; 日本のネット企業も、創業後の日数が短いにも拘わらず、その企業の市場価値を示す株価時価総額は相当なものです。ヤフーは日本の上場企業全体の中で16位で3兆6千億円、その親会社のソフトバンクは28位2兆3千億円、楽天が107位8千8百億円、ライブドアは200位以下の4千6百億円ですが、ネット企業内では5位です。

M; 新聞を見ていますと、ネット企業の記事は多くなりましたね。提携もM&Aも盛んです。果敢な意思決定と戦略行動がこの青年期企業群の特長です。

T; そこには優れた経営者がいると云うことですよ。志を持った人がいなければ創業は成らず、推進者がいなければ、事業が成長しない。

F; 語るべきことは多いです。個々の企業戦略も論じたいし、ネットベンチャーファンドの動きも語りたいたいし、ネット技術革新の深層も触れたいし、…。ねえ、J先生。

K; いや、この辺で少し時間をつくって、先ほどからご発言を望まれていたC先生に今後のネット社会における陰を指摘しつつ、適正な政策立案をご提案願います。今日は時間オーバーを覚悟していますの

で、…。

C; 残念ながら、今日はネット政策までは行けませんね。その前に論じなければならない「陰」も多いですが、今日は「明かり」だけでよいですよ。K先生のメの会ですから。

K; それじゃ、お言葉に甘えて、最後のメに入らせて下さい。先ず、皆さん放談会では色々とお世話になりました。有り難うございました。これからも、益々盛んに放談会をなさして下さい。私は梅田望夫氏の次のような明るい見方を紹介してこの放談会を結びたいです。

K 先生が梅田望夫氏の見解に賛成する。

…日本もそろそろインターネットの「開放性」を否定するのではなく前提とし、「巨大な混沌」における「善」の部分、「清」の部分、可能性を直視する時期に来ているのではないか。「日本がアメリカよりも進んでいる」という前提で物事を発想できる若者たちが大挙して生まれたことは、日本の将来にとっての明るい希望なのだから。

(出所) 2005年7月4日[産経新聞「正論」欄]より

注)

- <sup>1</sup> RDF(RSS) = Resource Description Framework(Rich Site Summary)
- <sup>2</sup> SEM = サーチエンジン・マーケティング
- <sup>3</sup> B2B=企業間電子商取引
- <sup>4</sup> B2C=消費者向け電子商取引
- <sup>5</sup> SNS = Social Network Systems
- <sup>6</sup> IP = Internet Protocol インターネットプロトコル(方式)
- <sup>7</sup> IPV6 = インターネットプロトコル第6バージョン
- <sup>8</sup> FMC = Fixed Mobil Conversion 固定・携帯電話の互換統合サービス
- <sup>9</sup> NGN = Next Generation Network 次世代ネットワーク
- <sup>10</sup> IPO= Initial Public Offering 株式新規公開